体感。感動。感謝。NBUのCOC事業をお伝えします。

coc-nbu.jp

November 2015 Nippon Bunri University, COC MAGAZINE

文部科学省 地(知)の拠点

日本文理大学COC事業

おおいた、つくりびと

変わりゆく農業の現場で、今、私たちができること。

高齢化、後継ぎ問題などを抱える「農業」の現場で
NBU生が肌で感じ、学んだこととは?

No.04

Copyright Nippon Bunri University, All rights reserved.

現場で学ぶ、農業の今

豊の国、大分の農業を次の世代へつなぐ。そのヒントを求めて大地へ。

全国的な認知度を誇る農作物ブランドを数多く持つ大分県。その一方で、特産品のPR、従事者の高齢化、後継者不足などの問題を抱えています。今回は、それらの課題解決に向けて、NBU生が農業の現場で取り組んでいる「私たちにできること」をリポートします。

project ① 大分の食卓を彩るカボス、美味しさのルーツを求めて。

今年5月、NBUの女子学生が学部や年齢を超えて集う、N女プログラムのひとつとして取り組んだ「N女クッキング」。自分たちが暮らす大分県のさまざまな郷土料理に挑戦した際、特に美味しかったのが「カボスゼリー」。その後、夏のオープンキャンパスでも、訪れた高校生のために1000個をつくり、たくさんの方から「夏のデザートに最適!」、「さっぱりしていて美味しい」など好評を得た。それをきっかけに、大分県を代表する特産品のカボスを実際に収穫してみたいと考えたN女メンバー。インターネットで事前にカボスの種類や成分についてリサーチし、臼杵市のカボス農園へと向かった。

収穫するカボスの木は3本。たった3本ならと甘く考えていたところ、カボスは高い位置や奥の方まで果実がついており、トゲもあるので女性にとっては予想以上のハードな作業。10名で約2時間弱をかけて、ようやくコンテナ10箱分を収穫した。かなりの重労働に疲れたのでは?と思いきや、生産者の苦労や情熱を肌で感じた彼女たちは、「皮も食べられる!何にも無駄にはできない」と、持ち帰ったカボスで早速、ジャムづくりにチャレンジしたのだった。ものづくりの世界にも通じる、N女の探究心とアイデアから新しいカボスの加工品が生まれるかも知れない…。

▲ヘタが長いと、他の果実を傷めてしまうので、枝から切り離した後、「二度切り」をする。

project ② 豊後大野市の特産品「甘太くん」広大な畑で感じた大きな収穫。

四季の森プロジェクトのメンバーが取り組んでいる、豊後大野市の特産品であるサツマイモ「甘太くん」農業体験。今年の春先、降りしきる雨のなか2500本もの苗植え作業を手伝い、天候に左右される農業の厳しさや難しさを実感した学生たち。いつの時代も土を耕し、種を撒き、苗を育て、「手塩にかけて育てている人」がいることを自分自身の心と体で感じることができる貴重な一日だった。

あれから半年。秋晴れの空の下、サツマイモの収穫のために畑を訪れた学生たち。収穫は晴天が数日続いたときに行う。その理由は、イモに水分がつくと腐りやすいからだという説明を受ける。いよいよ収穫作業がスタート。株のまわりの土を柔らかくしてイモを掘り出し、ツルをハサミで切る。至ってシンプルで特別な技術を要する作業ではない。最初は自分たちが植えた苗がここまで育ったことをワイワイと喜んでいた学生たちだが、30分も経過すると無言に…。屈み込んだままの作業は想像以上に辛い。サツマイモをひとつずつハサミで切るのは、意外と力が必要だ。何回も繰り返していると、次第にハサミを持つ指が動かなくなる。「体力だけが自慢!」と胸を張っていた学生もため息をつく。まさに気の遠くなる作業だが、休憩中の雑談のなかで「工学部の学生さんなら、こんな機械をつくってくれると助かるんやけど」、「毎年、夫婦二人だけでこの広い畑を全部、収穫するんよ」といった農家の方の心の声を聞いて、若者の意地にかけても途中で投げ出すわけにはいかないと奮い立つ学生たち。「甘太くん」という、大分県を代表する農作物のブランドを守るために、現場ではコツコツと地道な作業が行われている。収穫した山積みのサツマイモを眺めながら、生産者のこだわりと強い愛情を感じられたたことが、学生たちにとって“大きな収穫”となったようだ。

▲今年5月、豊後大野市の農家の方と協力しながら、広大な敷地に約2500本の苗木を植えつけた。

project ③ 佐賀関の農業を次の世代へ…私たちの世代ができること。

小学生を対象に、農業体験や自然とのふれ合いイベントなどのコミュニケーション活動を行っている、佐賀関「ウミネコの会」。NBUの学生たちは「ウミネコの会」のスタッフとして、継続的に活動をサポートしている。夏に開催された「さがのせき海の体験塾」に続き、今回、彼らが取り組んだのは「小学生と取り組む、稲刈りと野菜植え体験」。まずは、地元の農業名人に野菜の植え方を教えてもらい、子どもたちと一緒に冬野菜を丁寧に植えていく。その後は、田んぼに移動していよいよ稲刈りがスタート。ここで学生たちがみんなで考え、話し合っていたアイデアが実践される。それは、稲を刈る人と刈った稲を運ぶ人、2人一組になって作業を進め、どれだけ多く作業ができたかをゲーム方式で競うというもの。なぜ、このようなゲームを取り入れたのか?そこには学生たちの現場での経験が活きている。主催者である地元の農家の皆さんと、小学生は世代が離れているため、これまでに参加した「ウミネコの会」の行事において、作業の説明が分かりにくかったり、長時間、同じことを繰り返していると、子どもたちが飽きてしまうということを課題として見つけていた。

そこで今回、「楽しみながら効率の良い作業を!」というテーマを設定し、チームをつくって競争したのだ。その効果は現場の「楽しい」空気となってはっきりと現れる。とびきりの笑顔と、元気なかけ声とともにテキパキと作業をする子どもたち。彼らを優しく見守る農家の皆さん。世代をこえて「ひとつのこと」に汗を流す素晴らしい時間。学生たちにとって、農家の方たちは、人生、そして仕事の大先輩。そして自分たちより下の世代の小学生は、これからの「未来」をともに創る仲間。その世代の橋渡しを果たす学生たちの姿には「自分たちでコミュニケーションを生み出す」エネルギーが溢れていた。

▲自分の胸の高さまで大きく育った稲を見て、嬉しそうな表情をみせる小学生たち。

Copyright Nippon Bunri University. All rights reserved.

日本文理大学COC事業

キラリびと

『おおいた、つくりびと』で活躍する学生、教職員、地域の皆さんにインタビュー。

04

佐賀関「ウミネコの会」プロジェクトメンバー
工学部 航空宇宙工学科1年

迫屋 和希

Q. 佐賀関「ウミネコの会」参加へのきっかけは?

A. 「人間力プロジェクト」など、NBUが取り組む社会貢献活動の説明を聞いて、高校時代に興味はあったものの参加できなかった活動に参加するチャンスだと感じました。大学生だからこそ体験できることがきっとあると思います。

佐賀関「ウミネコの会」で、私たち学生は、地元の高齢者の方々と、子どもたちをつなぐパイプ役です。月に数回、自分たちができることを仲間と一緒に考えて、カタチにしています。

Q. 地元の子どもたちと一緒に稲刈りや野菜植えをするときに心がけたことは?

A. 農家は高齢化が進んでいますので、農家の皆さんと小学生の子どもたちとの間に、正直、世代のギャップというものはあります。それをいろんなアイデアや声掛けなどで埋めていくのがNBU生の役割。たとえば鍬の使い方を自分が教えてもらったら、それを子どもたちに丁寧に分かりやすく伝えてあげることが大切だと思います。自分も分からないことは彼らも分からないと思うので、指導員ではなく、同じことを学ぶ仲間として積極的にコミュニケーションを図りました。

and more...

PICK UP! COCプロジェクト

2015.10.15 **採穂作業を通して働くことを考える**

佐伯に続き、玖珠での採穂作業

赤ん坊の髪のように柔らかい穂の採取は、手作業である為、効率が悪い。足場の悪い中で両足を踏ん張り、ハサミ片手に、背伸びの作業であったが、一度体験したことのある作業のためチームワークも良く、板についている。しばらくして、「あのお、学生さんには悪いんですけれど‥‥」と優しい声がした。「斜めにカットするのではなく‥‥」「えっ、佐伯ではこんな風に教わりました‥‥けど‥‥」どうやら、佐伯と玖珠では、同じ杉でも切り方が異なるようだ。そういえば、山の傾斜が違う。同じ県でも、県南と県北では地形や気候が違い、種類や植え方も違うのだそうだ。

詳しくは分からないが、「それぞれに個性ってあるからなあ」と、自分たちに重ね合わせると、妙に納得できた。植樹できるまで苗木が育つには2〜3年はかかるらしい。何でも一人前になるには時間がかかる。やればやるほど、やるべき事が見えてくる。

それが働くということなのかもしれないなあ。

まだまだあります！
大分県内をステージに進行中のプロジェクトが盛りだくさん。

- 森林ボランティアで学んだこと
- 一束の稲穂の重み
- 海に面した地域の夏〜湧き上がる感謝のこころ

etc...

くわしくはNBUのCOC特設サイト **coc-nbu.jp** へ

文部科学省 地(知)の拠点
NBU日本文理大学
〒870-0397 大分県大分市一木1727
TEL.097-592-1600(代表)
http://www.nbu.ac.jp

大学院 工学研究科 □環境情報学専攻 □航空電子機械工学専攻
工学部 □航空宇宙工学科 □機械電気工学科 □情報メディア学科 □建築学科
経営経済学部 □経営経済学科

Copyright Nippon Bunri University, All rights reserved.